令和 4 年電気学会電力・エネルギー部門大会
特別企画パネルディスカッション「超成熟社会における社会システム」

日時：2022 年 9 月 8 日(木)14:20～16:20
場所：フェニックスプラザ小ホール

コーディネータ
　　宮内　肇　　熊本大学　大学院先端科学研究部　准教授
パネラー
　　藻谷　浩介様　日本総合研究所　調査部　主席研究員
　　森　　雅志様　前富山市長
　　美濃　由明様　電力中央研究所　常務理事
　　喜多　一　様　京都大学　国際高等教育院　教授

【パネルディスカッションの趣旨】
「成熟社会」とは元々、大量消費社会に代わり高水準な物質文明と共存しつつ精神的な豊かさや生活の質を優先する社会と定義されたものであるが、転じて、物質は満たされるものの成長はピークアウトしさまざまな課題が噴出する社会を指すことが多い。我が国も、国勢調査に基づく人口が国勢調査開始以来 2016 年には初めて減少に転じ、また、一人当たりの名目 GDP が 2001 年には世界 5 位であったものが、2010 年には 14 位、2018 年には 20 位と、世界に占める経済力も年々低下し、また、道路や水道など生活基盤となるインフラストラクチャーも老朽化が進むなど、まさしく後者の意味での「成熟社会」であり、もはやそれすら通り越した「超成熟社会」である。
2050 年のカーボンニュートラル達成を目指す一方で、この「超成熟社会」に適応した電力・エネルギー供給形態の変化と維持を考えていく必要がある。人口減少に伴う過疎化・限界集落化、高度成長期に拡充した電力設備の老齢化、電力自由化に伴う投資抑制と更新繰り延べなど、今社会や電力システムが抱える課題は多岐にわたる。本パネルディスカッションでは、このような諸課題を提議し、「超成熟社会」に適応した電力・エネルギーシステムなど社会システムのあり方について意見を交わしたい。